

二〇一〇年度

青山学院中等部入学試験問題

国 語

注意

- ・ 指示があるまで開いてはいけません。
- ・ 答えは解答用紙に書きなさい。
- ・ 記号がついているものはすべて記号で書きいれなさい。
- ・ 句読点や「」も一字とします。
- ・ 試験中は横を向かないこと。早く終わっても周囲を見まわしたりしないこと。そのような場合には注意されることがあります。

□ 次の詩を読み、後の問いに答えなさい。

ゆずり葉

河合 醉茗

子供たちよ

これはゆずり葉の木です。

このゆずり葉は

新しい葉が来ると

入れ代わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉

こんなに大きい葉でも

新しい葉が来ると無造作に落ちる

新しい葉に □ をゆずって――。

子供たちよ。

お前たちは何を欲しがらないでも

すべてのものがお前たちにゆずられるのです。

太陽の廻るかぎり

ゆずられるものは絶えません。

輝ける大都会も

そっくりお前たちがゆずり受けるのです。

読み切れないほどの書物も

(2) (1) □ に入る言葉を詩の中から一語で書きぬきなさい。

―― ① 「ひとりでにいのちは延びる」とはどういうことですか。

ア 目に見えないものに支えられ人は生きている。

ウ 人はできなかったことが、いつかできるようになる。

イ いつの間にか知らないうちに人は成長してゆく。

エ くり返しくり返しして、人は豊かになってゆく。

みんなお前たちの手に受取るのです。

幸福なる子供たちよ

お前たちの手はまだ小さいけれど――。

世のお父さん、お母さんたちは

何一つ持ってゆかない。

みんなお前達にゆずっていくために

いのちあるもの、よいもの、美しいものを、

一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど

② ひとりでにいのちは延びる。

鳥のようにうたい、花のように笑っている間に

③ 気が付いてきます。

そうしたら子供たちよ。

もう一度ゆずり葉の木の下に立って

④ ゆずり葉を見る時が来るでしょう。

小林信次 水内喜久雄 編

『子どもといっしょに読みたい詩』 あゆみ出版

(3) ——— ⑧ 「気が付いてきます」とは、何に「気が付いて」いくのですか。

I

Ⅲ

に詩の中から適当な部分を書きぬき、文を完成させなさい。

自分たちが **I** を **II** ているという **III** に気が付いていく。

(4) — ③「ゆずり葉を見る時」とはどのような時ですか。

ア 多くのものをゆずられて、大いなる満足感を得た時
イ 父母からゆずられる責任の重さにおしつぶされそうになる時
エ 大人に成長して、次の子供たちにすべてゆずることをさとした時
ウ 初めてゆずり葉を見た、子供のころの気持ちにもどった時

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

土地の恩、というものがわからないかと教えられたことがある。住んでいる土地が、なにかを教え、なにかを恵んでくれるのだという。そういうわれれば気づく。貧しい所にいれば、貧しさとはどんなことかを知るし、魚をとる土地なら魚の恩恵にあずかり、大根をまく土地なら大根の育ちをおぼえる。

土地の恩のおかげで私は、^④桜の葉のにおいを知っている。いまは跡形もなくなくなっているが、まえには花の名所として知られていた土地にうまれたからである。お菓子の桜もちのあのにおいなのだが、ああして塩で保存したものではなくて、根が生えて生きている木の、なまの葉っぱから^⑤に匂うにおいを知っているのだ。桜という木は^⑥せっかちな性分で、花もやたらと急いで落ちたがるが、花が散るのを待ちかねて、ぞくぞくと若葉が出る。そしてそのしなしなした若葉がまたたちまち、ごわごわした濃緑の、^⑦したたかな葉になってしまう。

匂うのは若葉のうちの短い期間であり、それも朝はやい時間である。夜の雨が上がって快晴の早朝、並木の下を通ると、ほんのりと柔らかな匂いがうごく。桜もちの葉のようなあんなきつい匂いとは、比べものにならない上品な淡さで、だが生き生きたにおいである。たたずめば定めがたくうすれる匂いだが、行けばしかとこめて匂っている枝の下もある。知らぬ人が多い葉ざくらの匂いである。話しても^⑧げげんな面持ちをされるの

はさびしいが、若い日の嗅覚が敏感なうちに、^⑨この匂いを知ったのはありがたい。まったく、そこに住んだからこそである。

私の父は釣がすきで、時によると二日も三日も川の上にいる。船頭といっしょに船へ泊まるのだが、日の出とともに醒めてこべりから川水で顔を洗おうとすれば、水面ひくくくに野バラの匂いが漂っていて、これこそ釣師に贈られた天のめぐみだ、と^⑩話したことがある。利根川のどこかにもやった時の話である。野バラは甘くにおう。

それから二十何年か後の初夏、まったく人気がない浅間山の中腹を登っていた。道がくの字に折れる所へきて、^⑪折れてびっくり、声をあげた。狭い道の両側から卯の花と茨の花が、たわなに咲き重なって真っ白く、あたり一面が濃く匂って、森閑と静寂、とき折りひとりでに花ははらういでこぼれ落ちていた。卯の花も野バラもどこにでもある花、めずらしいとは思われないが火をはく浅間焼け山を、人しれず飾っていた白いその花とその芳香には、感動があった。^⑫通りすがりの土地にも、恵みはととのえられている。

いいも悪いも、消えてしまうのが匂いだけれど、印象は一生のこる。だからせて——いさぎよくババアにはなるとも、ババアくさくはなるまい、とねがうのである。

幸田文『ふるさと隅田川』——川と山のおい——ちくま文庫

- (1) — ^①について、筆者の知っている「桜の葉のにおい」はどんな感じのするものですか。本文中から十字以内で書きぬきなさい。
- (2) ^②に「そのまま」という意味になるよう、適当なひらがな二字を入れなさい。
- (3) — ^③「せっかち」の意味になるよう、次の空らんに適当な語を漢字一字で入れなさい。

落ち着きがなく先を急ぐこと。

^① 気。

^② 急。

(4) — ④「したたかな」の意味はどれですか。

ア 強くて手ごわい イ すらっとして美しい ウ 変化しやすくてやわらかい エ 元気に満ちて若々しい

(5) — ⑤「げんな面持ち」をされるのはなぜですか。

ア 多くの人はいいにおいだとは思わないから イ みんなは桜もちの強いにおいが好きだから

ウ 大半の人には忘れかけてしまったにおいだから エ ほとんどの人がかいだと意識していないにおいだから

(6) — ⑥「この匂いを知った」とありますが、何によって「知った」と筆者は書いていますか。本文中から五字以内で書きぬきなさい。

(7) — ⑦「話した」のはだれですか。本文中の言葉で答えなさい。

(8) — ⑧「折れて」をわかりやすい別の表現になるよう、適当なひらがな三字を入れなさい。

折れて ||

 て

(9) — ⑨「通りすがりの土地」に対応するものを本文中から七字で書きぬきなさい。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(出題のため、本文の一部を省略しています)

こどものときから、忘れてはいけない、忘れてはいけない、と教えられ、忘れたと言っては叱られてきた。そのせいもあって、忘れることに恐怖心をいだき続けている。悪いときめてしまう。

これまでの教育では、人間の頭脳を、倉庫のようなものと見てきた。知識をどんどん蓄積する。倉庫は大きければ大きいほどよい。中にたくさんのもものが詰ってあればいいほど結構だとなる。

せっかく蓄積しようとしている一方から、どんどんものがなくなっていくたりしてはことだから、忘れるな、が合言葉になる。ときどき在庫検査をして、なくなっていないかどうかをチェックする。それがテストである。

倉庫としての頭にとっては、忘却は敵である。①は②のあ

る証拠であった。ところが、こういう人間頭脳にとっておそれるべき敵があらわれた。コンピューターである。これが倉庫としてはすばらしい機能をもっている。いったん入れたものは決して失わない。必要なときには、さっと、引き出すことができる。整理も完全である。

コンピューターの出現、普及にともなつて、人間の頭を倉庫として使うことに、疑問がわいてきた。コンピューター人間をこしらえていたのでは、本もののコンピューターにかなうわけがない。

そこでようやく創造的人間ということが問題になってきた。コンピューターのできないことをしなくては、というのである。

人間の頭はこれからも、④一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならないだろうが、それだけではいけない。⑤新しいことを考え出す工場ではなくてはならない。倉庫なら、入れたものを紛失しないようにしておけばいいが、ものを作り出すには、そういう保存保管の能力だけではしかたがない。だいいち、工場にやたらなものが入っているのは作業能率が悪い。よけい

なものは処分して広々としたスペースをとる必要がある。それかと言って、すべてのものをすててしまつては仕事にならない。整理が大事になる。

倉庫にだって整理は欠かせないが、それは③である。それに対して、工場内の整理は、④である。

この工場の整理に当てることをするのが、忘却である。人間の頭を倉庫として見れば、イキケン視される忘却だが、工場として能率をよくしようと思えば、どんどん忘れてやらなくてははいけない。

そのことが、いまの人間にはよくわかっていない。それで⑥工場の中を倉庫のようにして喜んでいる人があらわれる。工場としても、倉庫としてもうまく機能しない頭を育ててしまいかねない。コンピューターには、こういう忘却ができないのである。コンピューターには倉庫に⑦センネンさせ、人間の頭は、知的工場に重点をおくようにするのが、⑧これからの方向でなくてはならない。

それには、⑨忘れることに對する偏見を改めなくてはならない。そして、そのつもりになってみると、忘れるのは案外、難しい。

例えば、何か突発の事件が起こったとする。その渦中の人は、あまりのことに、あれもこれもいろいろなことが一時に殺到する。頭の中へどんどんいろいろなことが入ってきて、混乱状態におちいる。茫然自失、どうしていいかわからなくなる。これが「忙しい」のである。「忙」の字は、心⑤()を亡くしていると書く。忙しいと頭が働かなくなってしまう。頭を忙しくしてはいけない。がらくたのいっぱいの倉庫は③コまる。

- (1) ①・②にはそれぞれがあてはまりますか。
- ① ア 博識 イ 良識 ウ 常識 エ 学識
- ② ア 学問 イ 才能 ウ 活気 エ 忍耐
- (2) ①「一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならない」のはなぜですか。その理由を「から」と続くように本文中から探し、そのはじめと終わりの四字を書きぬきなさい。
- (3) ③「新しいことを考え出す」と同じ意味で使われている熟語を、本文中から書きぬきなさい。
- (4) ③・④にはそれぞれどれがあてはまりますか。
- ア あるものを順序よく並べる整理 イ 保存状態の見栄えを良くする整理 ウ すべてのものをつめこむ整理
- エ 一つ一つのものを大切に整理 オ 作業のじゃまになるものをとり除く整理
- (5) ①「工場の中を倉庫のようにして喜んでいる人」とはどのような人ですか。
- ア 工場と倉庫の両方の働きをして効率のいい人 イ 本来自分が負うべき役割を見失っている人
- ウ 全てを他人任せにして満足しきっている人 エ 機械に出来ない忘却の技術を持っている人
- (6) ①「これからの方向」とありますが、それはどのような社会ですか。
- ア 今までの知識がまるで通用しない社会 イ これまでにない出来事ばかりが起る社会
- ウ 全てをコンピュータで処理する社会 エ 人間にしかできないことをすすめてゆく社会
- (7) ①「忘れることに対する偏見」について、①②の問いに答えなさい。
- ①「忘れることに対する偏見」とは、どのような考え方にもとづいていますか。本文中の適当な部分を書きぬいて完成させなさい。
- 忘れることは
考え方。
- (8) ②この「偏見」に対して、筆者はどのように主張していますか。そのことがふくまれる一文を探し、はじめの五字を書きぬきなさい。
- (9) ⑤に入る「忙」の部首名をひらがなで答えなさい。
- ⅡⅠⅢのカタカナを漢字に直しなさい

④ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(出題のため、本文の一部を省略しています)

この六月の朝、ミス・パレー・ハリントン^{じよう}は少しばかりあわてて台所へはいつてきました。パレー嬢^{じよう}がせきこむことは珍しいのです。落ちついていっているのがパレー嬢の自慢^{じまん}だったのです。ところが、^㉔きょうはあわてていました——ほんとうにせきこんでいるのです。

ナンシーは流しもとで皿洗いをしていましたが、驚^{おどろ}いて見あげました。ナンシーがミス・パレーのところへ奉公^{ほうこう}にきてからまだ二月しかたっていないけれど、もうすでに自分の女主人は^㉕か・か^㉖しないたちだということはわかっていました。

「ナンシーっ」

「はい」と元気に答えながらも、ナンシーは手に持っていた水差しをふいていました。

「ナンシーや！」声^{こゑ}が荒々しくなりました。

「わたしが呼んだら仕事をやめてわたしの言うことを聞いてもらいたいね」^㉗かわいそうにナンシーはまっかになりました。すぐ下に置きましたが、ふきんがひっかかっていましたので、あやうくその水差しをひっくり返すようになり——ナンシーはいっそう^㉘ど・ま^㉙しました。

「はい、かしこまりました。はい」水差しを置きなおして、急いで主人のほうを向き、

「けさは大急ぎであとかたづけをするようにとおっしゃいましたので、つい仕事に気を取られました」

女主人は顔をしかめて、

「おだまり、ナンシー。言いわけは聞きたくないよ。注意してもらいたいのさ」

⑤ 「はい。かしこまりました」ナンシーはためいきをかみ殺しながら、いったいどうしたらこの人の氣にいるのだろうと考えるのでした。ナンシーはいままで他人の家に『奉公』したことはありません。ところが、ナンシーをかしらにあと三人も小さな子供をかかえて病弱な母が突然^{とつぜん}夫に死にわかれたのですから、ナンシーはなにか家の暮らしを手伝うために仕事を、

しなければならなくなりました。丘^{おか}の上の大きなお屋敷^{やしき}へ台所働きにはいれたことでは大喜びをしていました——ナンシーは十キロはなれた田舎の『四つ角』と呼ばれていた村からきています。ミス・パレー・ハリントンについては、町じゅうで指折りの大金持ちハリントン家の女主人だということだけしか知りませんでした。それはもう二月もまえのこととて、いまとなれば、パレー嬢はこわい顔をしたきびしい人でナイフが床の上に落ちて、戸がカタリと音をたてても顔をしかめるのに——さて、それならナイフも戸も静かにおさまっていたら笑うかと言えば、どうして、どうして、ニコリともしない人だということがわかりすぎるほどわかってきました。

「朝の用事がすんだらね、ナンシー、階段のつきあたりの屋根裏の小屋をすっきりかたづけて、あそこにある簡易寝台^{しんたい}を支度^{しだく}しておおき。トランクや箱を外へでしたらあとをよく掃^はいておくのはわかってるだろうね」

「はい、かしこまりました。だしましたものはどこへ入れたらよろしゅうございますか？」

「まえの屋根裏のほうへさ」と言って、ちょっと考えているようでしたが、すぐ続けて、

「いまのうちに話しておいたほうがいいだろうから、言うがね、ナンシー、わたしの姪^{めい}のパレアナ・フィテアという子がここへきていっしょに住むようになったのだよ。年は十一。その子をあの部屋で寝起^{ねお}きさせるのさ」

「お小さいお嬢さまが——こちらへおいでになるのでございますか、ミス・ハリントン？ まあ、なんてけっこうなことでしょう」と言ったナンシーはあの『四つ角』の家に小さい妹たちがおればこそ、家じゅうに太陽の光がふりそそいでいるようなのだと思いました。

⑥ ナンシーは顔が赤くなりました。

「さようでございますように。ただ、わたくしはその小さいお嬢さんへ

がここへおいでになりますれば——お家のなかになにぎやかに——あなたさまにとって、おにぎやかになることだろうと存じまして」と、まごついてどもりながら言いました。

「ありがとうございます」ミス・パレーの調子は E でした。

「いまのところ、そんな願いは持ち合わせてもないがね」

「でも、あなたさまには——お姉さまのお子さんですから、ご大切な姪御さんでしょうに」

ナンシーは一生懸命でした。さびしい旅人のこの子供をなんとかして暖かく迎える用意をしておくのが自分の責任のように感じたのです。

ミス・パレーはつんとあごをあげて、「だがね、ナンシー、わたしが進んでその子の面倒を見なければならなんじゃないってわけがあるはずはないと思うよ。しかしまあいまも言ったとおり、わたしは自分の義務は心得ているつもりさ。じゃ、すみずみをよく気をつけて掃除をするんだよ、ナンシー」と、とげとげしく言い放って部屋を出ていきました。

E 「はい、かしこまりました」ナンシーはためいきをつきながら、また新しく水差しをぬらしてふきはじめました。

エレナ・ポーター 村岡花子訳『少女パレーナ』角川文庫

(1) — A はなぜですか。二十—二十五字でまとめなさい。

(2) ①・か・か は「いそがしそうで、落ち着きがない様子」に、②ど・ま・ひらがなを入れなさい。

(3) E にはどれがあてはまりますか。

(4) 次の || で囲まれた文章について、あとの ①—④の問いに答えなさい。

この日はパレーナをめぐって両者のとらえ方に大きな違いがあった。

ナンシーは、主人の望むようにと仕事に励んでいる。B 「まっかにな」ったのは、I からであるが、そのあわてぶりをかくし、どうしたら主人に気に入られるのだろうと、ミス・パレーについて思いをめぐらせ、C 「ためいきをかみ殺し」ているのであった。

ミス・パレーは、静かな生活に突然小さな女の子が飛び込んでくること

を迷惑に感じ、II でパレーナを引き取ると明言している。一方、ナンシーは、パレーナに同情的で、優しく受け入れるのが自分の III と考える。D 「顔が赤くな」るほど、パレーナをむかえ入れた新しい生活について、ナンシーはミス・パレーに IV な様子で話をした。それは自身の小さい妹たちへの思い入れもあったが、結局、その思いは伝わらず、ミス・パレーとすれ違えばかりの会話をすることをおきらめ、F 「ため息をつきながら」V かのよう、水差しをふくという動作に移る。

①

I

にはどれがあてはまりますか。

ア 急いであとかたづけをするようにと指示されていたのに、言っていることが前と変わり、腹が立った
 イ あとかたづけに夢中になっていて、呼ばれたら仕事をやめるということを忘れて、きまりが悪かった
 ウ 自分はあとかたづけをしなければいけないと信じていたので、大きな声を出されてびっくりした
 エ あとかたづけに夢中になるあまり、自分の名が大声で呼ばれていたことに気づかず、恥^はずかしかった

②

II

III

に適当な熟語を本文中から書きぬきなさい。

③

IV

にあてはまる言葉を本文中から書きぬきなさい。

④

V

にはどれがあてはまりますか。

ア ミス・パレーへの怒^{いか}りをぶつける

イ それまでのやり取りをふり返る

ウ 一回洗ったのを忘れた

エ 一切の思考をおしのける

2010 年度 入学試験 国語解答用紙

氏 名	
-----	--

受験番号					
------	--	--	--	--	--

- ・ 記号の付いているものはすべて記号で書き入れなさい。
- ・ 句読点や「 」も一字とします。

一	(1)	(2)			
	(3)				
	(4)				
I		II		III	

二	(1)								(2)	(3)		(4)	(5)
										①	②		
										気	急		
	(6)				(7)		(8)		(9)				
						て							

三	(1)		(2)								(3)					
	①	②	～								から					
	(4)		(5)	(6)	(7)											
	③	④			①								②			
	(8)		(9)													
			I		II		III		る							

四	(1)											
	20						25					
	(2)						(3)					
	①						②					
	か						か ど ま					
	(4)											
	①	②				③				④		
I	II				III				IV			

合計	
----	--